

17-18世紀に成立したおもな学会と雑誌類

名称	創立年・場所	雑誌名とその日本語訳でよく見かけるもの	性質	かかわった主要人物
The Loyal Society of London ロンドン王立協会	1662年 ロンドン	Philosophical Transaction of the Royal Society of London (1665年-) 『哲学雑誌』『王立協会誌』	フランシス・ベーコンの理念を踏まえ、自然研究者の共同作業を目的として発足。財政は会費で維持し、興味を持つものに広く門戸を開く。	Hooke・Oldenberg (=以上書記) Newton
l'Académie Royal des Science (王立科学アカデミー)	1666年 パリ	Journal des savants (1665-1792年) 『学者の雑誌』『学術通信』	ルイ14世の財務総監コルベールが科学研究の国家の援助を進言。少数(定員50名)からされた国家直営の研究機関。外人会員もいる。在住の国家体制の変化とともに名称や体制が変更される。	Huygens・Lagrange
母体となる学会なし		Acta Eruditorum Lipsiensium (1682年-1782年) 『ライプツィヒ学報』・『学術雑誌』・『学術記録』	ライプツィヒ大学オットー・メンケがLeibnizに新しい学術雑誌を持ちかけることによって生まれた雑誌	Leibniz・Bernoulli 一族
Kurfürstlich Brandenburgische Societät der Wissenschaften (ブランデンブルグ選帝侯立科学協会) = 「ベルリン・アカデミー」・ 「プロイセン科学アカデミー」	1700年 ベルリン	『(ベルリン・アカデミー)紀要』(1710-43)	ブランデンブルグ選帝侯がLeibnizの助言のもとに設立。1701年 Königlich Preußische Sozietät der Wissenschaften (プロイセン王立科学協会)・1744年 Königliche Akademie der Wissenschaften (王立科学アカデミー)と改称	Leibniz・Euler
l'Académie de Saint-Pétersbourg (ペテルブルグ帝国科学アカデミー)	1724年 サンクト・ペテルブルグ	Commentarii Academiae Scientiarum Imperialis Petropolitana (『(ペテルスブルグ・アカデミー)紀要』)	ピョートル大帝によって、構想され、死後設立される。出版活動や公開講座・教育も重要視する。	Euler・Bernoulli 一族